

安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

### 危険

**電線との接触による感電** 高圧線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣り場を移動する時は竿をたたみ、高圧線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。

**落雷による感電** 落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。また、雷の発生がなくても、釣竿から電気を感ずるようなときも同様、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。

**釣り場以外の電線による感電** 釣り以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。

### 警告

**キャスト(投げる)時の注意** キャスティング(投げる)の時は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアーフック、オモリ等が人に当たると非常に危険です。

### 注意

**固着のゆるめ方** 釣竿の固着(継ぎ部が食い込んで外れない時)は、継目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネリながら押して(振出竿の場合)、継目をゆるめてください。その際、一気に力を入れると釣竿の継目にはさみ、けがをします。●振出竿の場合 ●継ぎ竿の場合

**根掛かりの外し方** 根掛かり(水中、陸上での障害物に仕掛けが絡みはれない状態)した時は、無理に竿をおかないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできて、けがをします。根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとって引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切ることがありますので、手袋やタオルで手を保護してください。

**破損時の取り扱い方** 使用中、万が一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、剥離)した場合、破損した箇所を手なだけけがをします。

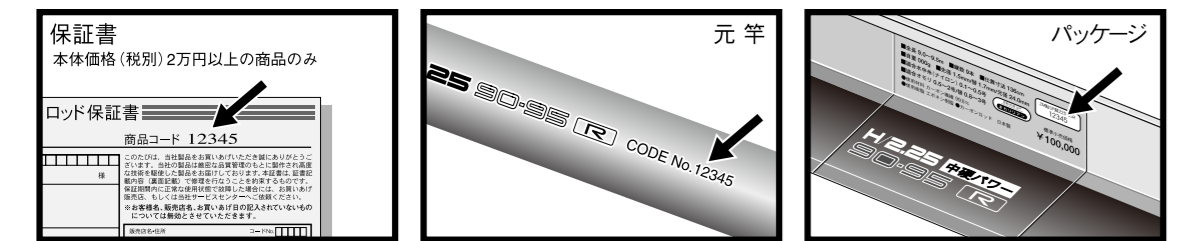
※本製品の本体には法律に基づき、竿による感電に注意して頂くよう注意喚起シムボルシールが貼ってあります。簡単にはがれないように、シールの上にコーティングしてありますので、はがさないようにお願いします。尚、印刷されている機種もあります。

### 修理部品に関するお願い

弊社では修理部品を商品コード番号によって分類しています。穂先交換などご自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書「本体価格(税別)2万円以上の商品のみ添付しています」本体元竿の商品名近く、もしくはパッケージのラベルに記載されています。商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。

●修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。修理対応期間につきましてはシマノ全国サービスネットにお問い合わせください。

※商品コード番号は、数字の5ケタになっています。(例) CODE No.12345



**●ロッドの曲がりについて**  
現在のロッド生産技術上、グラスロッド、カーボンロッドの違いを問わず各部分の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。特にカーボンロッドに於いては繊維自体の持つ強い剛性のため、ロッド全体に垂れ下がりがかりないので従来のグラスロッドに比べ曲がりかどうしても自立します。強度機能上は問題ありませんので、ご安心ください。

**●改造後の責任は負いかねます。**  
改造後の故障については、保証期間中であっても負いかねる場合があります。ご注意ください。

**●万一の故障は全国のサービスネットへ**  
お買い上げの販売店又は、お近くのシマノサービスネットへご連絡ください。その際、保証書付きの商品は保証書を添えてください。保証期間中の故障は、保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。保証期間経過後の修理、又は保証書無しの商品は、有料修理とさせていただきます。

※この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造中止後6年間としています。  
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。  
修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。  
性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性があります。

# SHIMANO 鱒海 SI

## リンカイ SI [中通し振出磯竿]

このたびは、シマノカーボンロッドをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

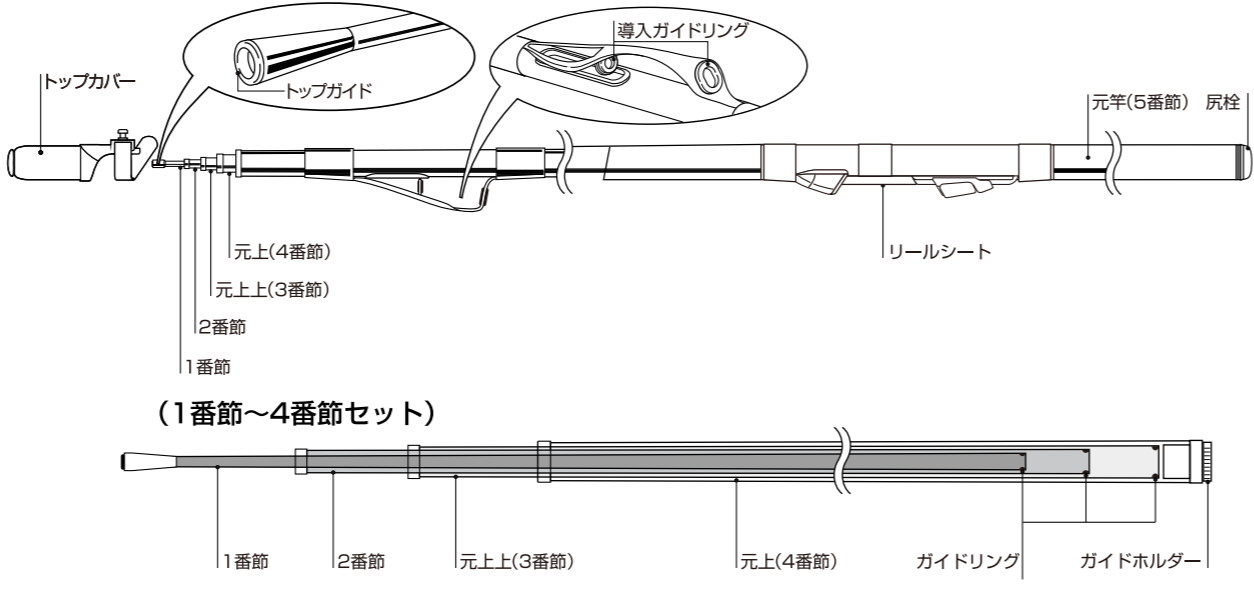
いかに軽くて丈夫なロッドでも、乱暴な取り扱いでは、竿を傷めてしまいます。

釣り人にとって、竿は大切な体の一部。

この説明書をお読みの上末永く、ご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

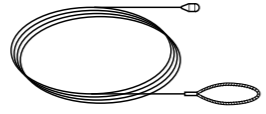
### 各部の名称と仕様

●イラストは中通し振出磯竿の5本仕舞で説明しています。(図はイメージになります。)



#### 標準付属品

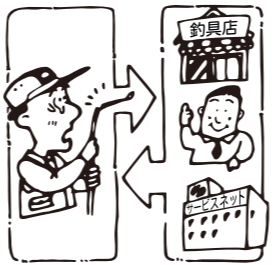
●案内ワイヤー



●竿袋



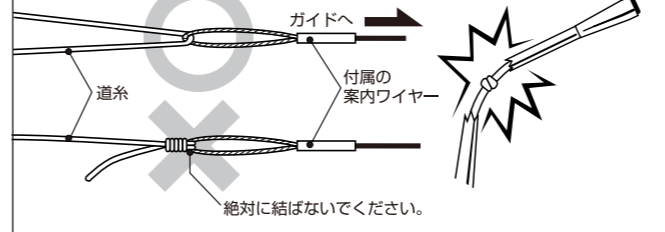
●市販のクリーナーやワックス、洗剤や、ベンジン等の有機溶剤をご使用になるときは十分注意してください。塗装を痛める原因になります。また、竿内部には、市販のロッドクリーナーやワックス・洗剤などを付着させないように注意してください。



※この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造中止後6年間としています。

### 使用上のご注意

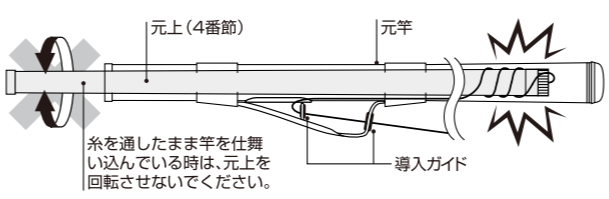
- 破損の恐れがありますので、  
●先糸はご使用にならないでください。  
●案内ワイヤーで、道糸を通す場合は、絶対に結ばないでください。  
●案内ワイヤーは、付属のワイヤーをご使用ください。



- ゴムのウキ止めは、ご使用にならないでください。
- 1番節の過度な手曲げは、差し控えてください。

- 糸を通したまま竿を仕舞う時は、竿の内部で糸がたるまないようにテンションをかけた状態で、仕舞い込んでください。たるんだまま竿を仕舞うと内部で糸がからむ恐れがありますのでご注意ください。

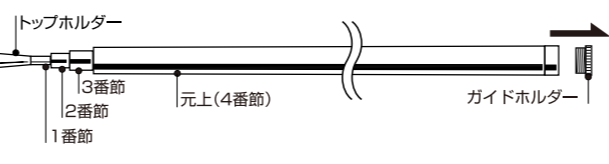
糸を通したまま竿を仕舞い込んでいる時は、元上を回転させないでください。糸が絡んで破損の原因となります。



### 分解・お手入れ方法

#### ●分解手順(5本仕舞の場合)

- 元竿の尻栓を左に回して外します。
- 元上(4番節)のガイドホルダーを外してください。3番節～1番節が抜けます。



#### ●組立手順(5本仕舞の場合)

- 組立は前記の分解手順と逆に順次行なってください。
- 組立の時、元上(4番節)の尻栓は十分締め付けてください。ネジの締め付けが不十分ですと、トラブルの原因になります。
- 元竿の尻栓はしっかり締め付けてください。締め付けが不十分ですと衣類の摩擦等で尻栓が外れて紛失の恐れがあります。

#### ●使用後のお手入れ

使用後は水洗いをして、汚れや塩分をきれいに落とすあと、乾いた布で水気をふきとり、風通しの良い場所に日陰干しをしてください。ロッドの頑固な汚れは台所用の洗剤等を含ませた柔らかい布でふき取ってください。

市販のクリーナーやワックス、洗剤や、ベンジン等の有機溶剤をご使用になるときは十分注意してください。塗装を痛める原因になります。また、竿内部には、市販のロッドクリーナーやワックス・洗剤などを付着させないように注意してください。

#### 3 使用される道糸は下記の号数指定を目安にしてください。

機種	1番節 最小内径	適合道糸 (ナイロン)	適合ウキ止め (線糸)
0	φ1.80mm	1~3号	SS-S
06	φ1.80mm	1~3号	SS-S
1	φ1.80mm	1~3号	SS-S
1.2	φ1.80mm	1~3号	SS-S
1.5	φ1.80mm	1~3号	SS-S

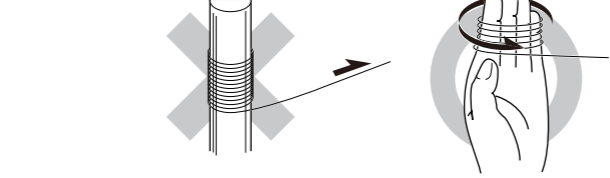
- 道糸は、メーカーにより外径寸法が異なります。確認の上ご使用ください。
- 道糸ハリス直結の場合、結び目の巻き込みすぎによる穂先破損にご注意ください。
- 道糸は、なるべくナイロン糸をご使用ください。カーボン系の太糸は、糸ヨレ(クセ)が入りやすい為、当商品でのご使用はおすすめできません。

- ウキ止め等をお使いになる時は、前記使用道糸の目安より細い道糸を使い、あらかじめ1番節に糸に通ることを確認した上でご使用ください。1番節に通す時、抵抗がある場合は無理に通さず、道糸・ウキ止め等を小さいサイズにしてご使用ください。

- 新品の糸は粘着性粉末等が出て、内面が詰まる場合があります。リールに巻き取る時、布等で拭き取りながら巻いてください。

- 案内ワイヤーは、使い終わったら必ず付属のケースに収納してください。伸ばしたままの状態ではバッグ等に収納するとクセが付く原因となります。

- 付属の案内ワイヤーは多少、巻きくせが付くことがあります。手などで強くこいたり、折曲げたりすることは避けください。付属の案内ワイヤーは小さく巻いたり、強く巻いたりしないでください。手のひらで軽く巻く程度が最適です。



#### ●竿内部のお手入れ

竿内部には、特殊な超撥水処理をしているため、ワイヤープラン等は絶対に使用しないでください。(内部加工面を傷つける恐れがあります。)

竿内部の洗浄は、毎釣行後に真水か、ぬるま湯を通してください。1番節は必ずトップガイドから強く息を吹き込んで残った水分やゴミを取り除いてください。



シマノ純正の超撥水仕様「インナーガイドアクティブスプレー」(別売)をご使用ください。

竿内部の撥水性を維持し糸のベタツキを抑え、仕掛けの投入・飛びがスムーズになるシマノ純正のIG専用スプレーです。



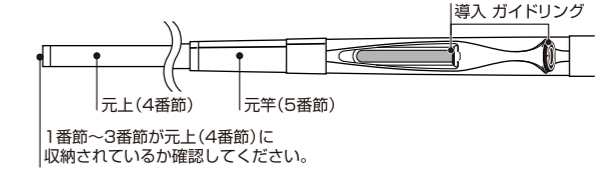
市販のスプレーやベンジン及びシンナー等の有機溶剤等も内部加工面を傷つける恐れがあり性能が低下しますので、絶対に使用しないでください。

### ご使用方法

●竿の糸通しは、元上(4番節)を伸ばし、1番節～3番節を元上(4番節)に収納した状態で行なってください。

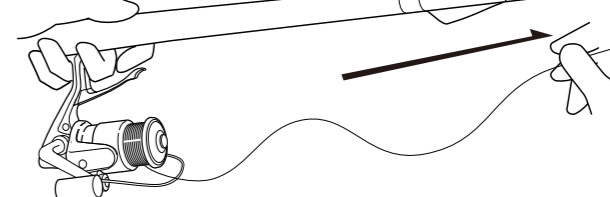
伸ばされた元上は、上向き状態にして糸通しを行なってください。下向きに構えますと1番節～3番節が元上の後端ガイドホルダーから離れて糸通しが大変困難となります。

#### ●糸通し作業時の状態(5本仕舞の場合)

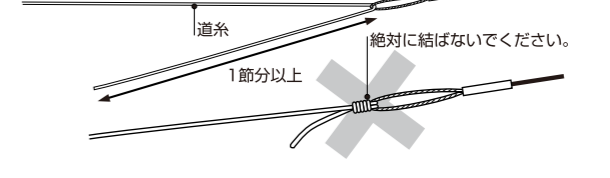


#### ●糸通しから竿セットまでの作業

- 元竿にリールを取付けて、道糸を十分に引き出してください。



- 案内ワイヤー先端のチチフ部分に道糸を通し、1節分以上折り返してください。チチフ部分には、直接道糸を結ばない様にしてください。



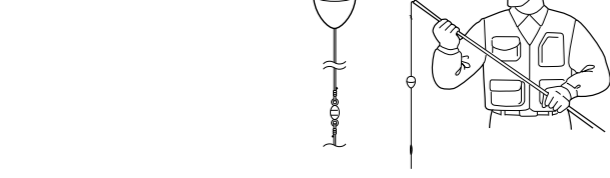
- 元竿(5番節)の導入ガイドから、元上(4番節)のガイドホルダーの真中をねらって案内ワイヤー先端(チチフと反対側)を通して行きます。

- この状態で道糸を出す場合は、元上(4番節)を引き出してから行うようにしてください。

- トップガイドの先端からワイヤーの端が出たら、ワイヤーのひっかけがつかないかを確認しながらゆっくりと引っ張って道糸をだしてください。

- 1番節の先端は径が細くなります。もし途中でひっかかる様なことがあればむりやむりにもう1度やり直してください。

- 道糸を通したら、仕掛け等を付けてください。道糸が戻ることはありません。



- リールのベールをオープン状態で1番節から順番に継ぎ目を固定しながら竿を引き出してください。

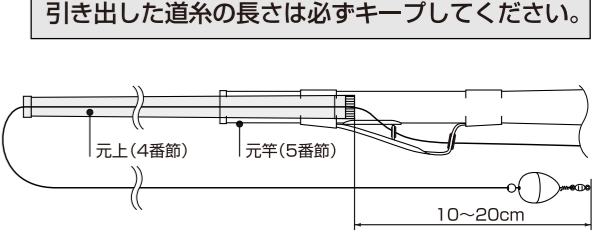
### ご使用後の収納方法

- 釣り終了後は、糸カミトラブル防止のため、仕掛けを切り道糸をリールに巻き込み、各節を収納してください。
- 必ず元上から順番に継ぎ目近くの両側を両手で持ち、右図のようにヒネリながら押すようにして、継ぎ目の固定を緩め、元竿に順番に収納してください。

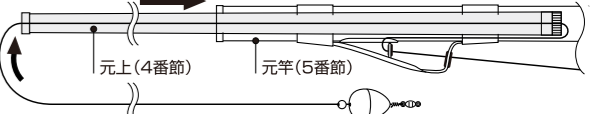
この際、一気に力を入れると、釣竿の継ぎ目に手をはさみ怪我をする恐れがありますので、注意しながら徐々に力を入れてください。

#### ●糸通しをした状態で磯へ渡る場合

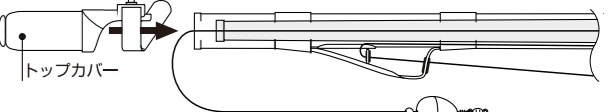
- ウキ、サルカンをセットし、道糸を引き出してください。この時、元上(4番節)の長さより10~20cm程長く道糸を出してリールのベールを戻してください。



- 元上(4番節)をゆっくり元竿(5番節)に仕舞っていくと元上(4番節)が元竿(5番節)に入っていくぶん道糸がトップガイドの中へ入っていきます。



- 元上(4番節)の長さより長く出ている分だけ道糸が残って元上(4番節)が全て元竿(5番節)に仕舞い込まれます。最後に残った道糸をトップカバーを付けて固定してください。



#### ●前項の後に仕掛けをセットする場合

- 前項目で仕舞い込まれた状態は導入ガイドから入った道糸が元上(4番節)と元竿(5番節)のすき間に導入ガイドと元上(4番節)後端のガイドホルダー部の2箇所道糸が180°折れ曲がって入っています。

このままの状態では、リールのベールをオープンにしても道糸は引き出せません。

- この状態で道糸を出す場合は、元上(4番節)を引き出してから行うようにしてください。

元上(4番節)を引き出す時に元竿(5番節)のすき間にある道糸が元上(4番節)と元竿(5番節)の合わせの部分に喰い込まれて道糸がカミ込む恐れがありますので十分にご注意ください。

- 元上(4番節)を引き出す時に、内部で道糸がたるまない様にトップガイドから出ている道糸には、常にテンションをかけながらゆっくり引き出してください。



たとえば、図のように道糸の先に10号程度のオモリを付ける等して道糸に、テンションをかける。

10号程度のオモリ

- 元上(4番節)が引き出せた後に1番節、2番節、3番節の順に竿をセットしてください。



# SHIMANO FISHING ROD

フィッシングロッドを末永くお使いいただくために

## フィッシングロッド 取扱説明書

このたびは、シマノフィッシングロッドをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。いかに軽く丈夫なロッドでも、乱暴な取り扱いでは、竿を傷めてしまいます。釣り人にとって、竿は大切な体の一部。この説明書をお読みの上未永く、ご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

# SHIMANO

### 安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

<b>⚠ 危険</b>	<p>高圧線への接近による放電や感電、さらに落雷による感電は、最悪の場合重大事故(感電死)を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意ください。</p> <p>気象条件により、空気に電気を帯びている場合があります。ビビリと電気を感じるのとは為です。天候の変化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣りはお避けください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。</p> <p><b>電線との接触による感電</b> 高圧線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣竿を移動する時は竿をたたみ、高圧線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。</p> <p><b>落雷による感電</b> 落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。また、雷の発生がなくても、釣竿から電気を感ずるようなときも同様に、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。</p> <p><b>釣り場以外の電線による感電</b> 釣り以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。</p>
<b>⚠ 警告</b>	<p><b>キャスト(投げ)時の注意</b> キャスティング(投げ)の時は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアーフック、オモリ等が人に当たると非常に危険です。</p>
<b>⚠ 注意</b>	<p><b>固着のゆるめ方</b> 釣竿の固着(継ぎ部が食い込んで外れない時)は、継ぎ目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネリながら押し(振出竿の場合)、継ぎ目をゆるめてください。その際、一気に力を加えると釣竿の継ぎ目に手をはさみ、けがをすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●竿の構造上、固着を完全に防止することはできません。固着をゆるめる時等、強く竿を握ると竿が潰れて破損し、手等に怪我をする場合がありますのでご注意ください。</li> <li>●固着をゆるめる時等、ガイド部分を握って節の抜き差しはしないでください。ガイドの変形や糸止部の破損の原因になり、手等に怪我をする場合がありますのでおやめください。</li> </ul> <p><b>根掛かりの外し方</b> 根掛かり(水中、陸上での障害物に仕掛けが絡みはすれない状態)した時は、無理に竿をあらさないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできて、けがをすることがあります。根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとって引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切ることがありますので、手袋やタオルで手を保護してください。</p> <p><b>破損時の取り扱い方</b> 使用中、万が一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、剥離)した場合、破損した箇所を手などがけをすることがあります。</p> <p><b>子供の手の届く所に置かないでください</b> 誤使用による事故や怪我に繋がる恐れがあります。</p> <p><b>釣竿を釣り以外の目的に使用しないでください</b> 事故や怪我につながる恐れがあります。</p> <p><b>竿の一部や穂先等を無理に曲げると折れることがあります</b> 折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがありますのでご注意ください。</p> <p><b>安全に釣りを頂くために</b> 万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがあります。釣りをする際は、安全のためサングラス(偏光グラス)、帽子の着用をお勧めします。</p>

※本製品の本体には法律に基づき、竿による感電に注意して頂くよう注意喚起シンボルシールが貼ってあります。簡単にはがれないように、シールの上にコーティングしてありますので、はがさないようお願いいたします。尚、印刷されている機種もあります。

## フィッシングロッド取扱い上の注意

### 使用上のご注意

- ガイド付き振り出し竿の場合・・・**
  - トップカバーをはずす時は、真上に引き抜くようにしてください。無理にひねったり、こじったりすると穂先を折ることがあります。
  - 移動ガイドは、確実にセットしてください。また、ガイドに道糸を通し忘れないよう注意してください。それらが原因で穂先を折ることがあります。
  - 糸ガラムシは、確実に道糸を巻き込まないでください。竿の一部に無理な力がかかり折れることがあります。
- ガイドなし竿の場合・・・**
  - 上栓をはずす時は、真上に引き抜くようにしてください。無理にひねったり、こじったりすると玉口部分を傷つけることがあります。
  - 糸ガラムシは、確実に道糸を巻き込まないでください。竿の一部に無理な力がかかり折れることがあります。
- ガイド付き並継ぎ・印籠継ぎ竿の場合・・・**
  - 竿を継いで伸ばす際、前後のガイドのセンター合わせをすると同時に継ぎ部の合わせをしっかりと行ってください。合わせが緩いと、キャスト時に合わせが抜ける恐れがあります。
  - フルキャストを繰り返す場合、定期的なロッド継ぎ部の合わせ具合をご確認ください。合わせが緩いと、キャスト時に合わせが抜ける恐れがあります。
  - 竿を継いで伸ばしたり、あるいは仕舞う際に、ガイド部を持って捻じったりしないでください。ガイドの破損、ガイドの変形、厚塗り部の割れや剥離、糸巻きが破損する恐れがあります。
- ロッドホルダー、ロッドクランプを取り付ける場合・・・**
  - かかり竿・船竿については、金属製ロッドホルダー及び金属製ロッドクランプの使用時において強い締付を行ないますと、締付部(素材等)の破損が生じる恐れがあります。この様な破損による損害については当社としては補償しかねますのであらかじめ御了承ください。
- スピゴットフェール(印籠継ぎ)の場合・・・**
  - スピゴットフェール(印籠継ぎ)部は隙間があくように設計されています。これは季節や環境の変化による合わせ部の膨張、収縮と磨耗に対応するためのものです。充分強度を持たせており使用上の問題はありませので安心してお使いください。無理矢理差し込んだりすると口割れをおこしたり、ぬげなくなる恐れがありますので、必要以上に差し込まないでください。
- ソリッド穂先に関するご注意・・・**
  - 穂先に用いられるソリッド材料は、カーボン或いはグラス繊維が一方向のため、トップガイドなどを持って捻ると破損の恐れがあります。ガイドを持って捻らないでください。
- リールシートに関するご注意・・・**
  - リールを取り付けていない状態で、ナットスクリーを締め込みすぎると破損する恐れがあります。フードの位置がリール脚の長さよりも短くなるまで締めないでください。

- ガイドなし振り出し竿の場合・・・**
  - 固着したところより細い(穂先方向)部分を、まず抜き取ります。元竿の中に仕舞い込んだロッドはそのままにして、板面等それほど硬くない水平な面に垂直に立てて持ちます。元竿や仕舞い込んだロッドを誘導管にして、ストン、ストンと落とせば意外に簡単に外れます。このとき、タオルや段ボールなどを敷いておけば、より安心です。
- ガイド付き振り出し竿の場合・・・**
  - 並継ぎ竿と同じ要領です。お互いに逆方向にネジリながら、ゆっくりと押し込みあいます。
- この時、竿に手をはさむ場合がある場合、手袋をつける等してご注意ください。**
  - この時、仕舞う節の継ぎ部付近をそれより太い節の玉口内側に当たらないように注意してください。玉口の端で細い節を傷める恐れがあります。仕舞う時に傷めると、次回釣行時に荷重がかかった際に破損する恐れがあります。
- この時、仕舞う節の継ぎ部付近をそれより太い節の玉口内側に当たらないように注意してください。玉口の端で細い節を傷める恐れがあります。仕舞う時に傷めると、次回釣行時に荷重がかかった際に破損する恐れがあります。**
- この時、仕舞う節の継ぎ部付近をそれより太い節の玉口内側に当たらないように注意してください。玉口の端で細い節を傷める恐れがあります。仕舞う時に傷めると、次回釣行時に荷重がかかった際に破損する恐れがあります。**

### 継ぎ目がとれにくくなった場合

- 並継ぎ・印籠継ぎ竿の場合・・・**
  - スベり止めのゴムシートや輪ゴムを当てて、図のように2人で向きあい、継ぎ目に近いところをしっかりと握ります。お互いに、逆方向にゆっくりとネジリながら引き抜きます。
- 継ぎ目に砂が入った場合・・・**
  - 振出し竿は、元竿の下栓を外し、一本一本抜き出して、竿の内側を洗い、手入れしてください。ガイド付きの竿は、下栓を外し、よく水洗いをして砂を流したあと、風通しの良い場所に日陰干しをしてください。
- いゆる固着は、水が付着した時や投げの力や魚の強い引きなどで多かれ少なかれ起きます。力かせに、無理やり外そうとすれば、竿を傷めてしまいます。上記のような要領で行ってください。それでも無理なときは、シマノサービスネットにご相談ください。**

### その他のご注意

- 竿が曲がる際に、糸巻き部の厚塗りが竿の曲がりによって剥がれ、ひびが入ることがありますが、ガイドやリールシートの固定力には問題ありません。現在の生産技術上、ひび割れを防ぐことはできない状態です。あらかじめご了承ください。
- 竿は一本一本、手作業で仕上げられています。そのため、商品により色調や質感に若干の差が生じる場合がありますがご了承ください。

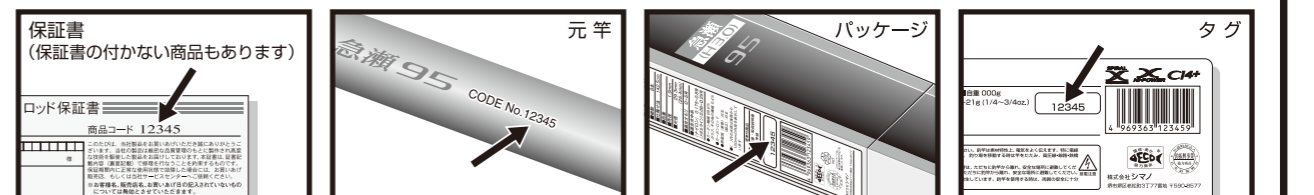
### 釣行後のお手入れもお忘れなく

- 水洗いをして、汚れや塩分をきれいに落とし、水気をふきとります。このあと、風通しの良い場所で、日陰干しをして、水気を完全にふきとってください。ロッド部はシリコンクロスなどで空ぶき。ガイドやリールシートは防錆スプレーを。こうしておけば、塗装部の水ぶくれ(プリスタ)や、金属部のサビなどをシャットアウトできます。
- タワシ・みがき粉・ベンジン及びシンナー等のご使用は絶対に避けてください。**
  - ロッドの汚れは、真水又はぬるま湯で洗った後、乾いた布でよく拭きとってください。注)市販のロッドクリーナーやワックス・洗剤等をご使用になる場合はくれぐれも注意してください。ロッドによっては塗装及び時にはロッドまで傷める原因になります。
- 車のトランクルームなどに長期間放置しないでください。**
  - 高温、密閉状態での長期間放置は、ロッドの大敵。釣行後は、上記の要領で手入れのあと、風通しの良い場所にしまってください。
- 竿の表面を布等で強くこすると、塗装の種類によっては色落ちが発生する場合がございます。ただし、塗膜そのものが剥離したり、ロッドの機能に影響を及ぼす恐れはございませんので、あらかじめご了承くださいませ。また、衣服等に色が付く場合がありますのでご注意ください。**

### 修理部品に関するお願い

- パーツを注文される際には、必ず商品名と商品コード番号をお知らせください。
- 弊社は修理部品を商品コード番号によって分類しています。穂先交換など自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書(保証書の付かない商品もあります)、本体元竿、パッケージのラベル、タグ等に記載されています。商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。
- 修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。修理対応期間につきましてはシマノ全国サービスネットにお問い合わせください。

※商品コード番号は、数字の5ケタになっています。(例) CODE No.12345



### ●ロッドの曲がりについて

現在のロッド生産技術上、グラスロッド、カーボンロッドの違いを問わず各部分の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。特にカーボンロッドに於いては繊維自体の持つ強い剛性のため、ロッド全体に垂れ下がりがないので従来のグラスロッドに比べ曲がりかどうしても目立ちます。強度機能上は問題ありませんので、ご安心ください。

### ●改造後の責任は負いかねます

改造後の故障については、保証期間中であっても負いかねる場合があります。ご注意ください。

### ●万一の故障は全国のサービスネットへ

お買い上げの販売店又は、お近くのシマノサービスネットへご連絡ください。その際、保証書付きの商品は保証書を添えてください。保証期間中の故障は、保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。保証期間経過後の修理、又は保証書無しの商品は、有料修理とさせていただきます。

※この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造中止後6年間としています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。

性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性があります。

